

International Workshop on the Syntax of Predication and Modification 2024

December 16-17
Ichigaya Campus,
Nihon University, Tokyo Japan

このワークショップはハンガリー科学アカデミーと日本学術振興会の二国間交流事業・共同研究「叙述と修飾の関係を規定する統語構造の研究 (An investigation of the syntactic structures specifying predication and modification relations) (課題番号 JPJSBP120243802)」の研究計画を推進する目的で開催されました。二国間交流事業には大学院総合社会情報研究科文化情報専攻の川嶋正士教授が分担者として加わっています。川嶋教授はワークショップでは招集者 (Convener) の役割を担いました。

今年度は日本でワークショップが開催され、世界各国から研究者が集まりました。ワークショップでは2件の基調講演と11件の発表がありました。ワークショップの初日は生成文法の叙述理論の第一人者である Marcel den Dikken ハンガリー言語学研究センター上席教授・リスボン大学教授の基調講演から始まりました。

世界各地から集まった研究者による質の高い研究発表と発表に対する質疑応答が続き、2日目の斎藤衛ノートルダム清心女子大学教授の基調講演で幕を閉じるまで、すべての講演と発表に関して活発な議論が繰り広げられました。

ワークショップの概要および各発表者の論文は、会議録 (Proceedings) で公表されます。会議録は、日本側の研究代表者の岸本秀樹教授が所属する神戸大学大学院人文学研究科言語学研究室から令和7年2月に刊行が予定されています。



(基調講演を行う Dikken 教授)